

8番（上野淑子君）〔登壇〕

おはようございます。8番上野です。登壇の許可を得ましたので、ただいまより一般質問させていただきます。

さきに通告していました子育て支援について質問をさせていただきたいと思います。

まず、子育て支援の1問目、就学前の医療費の検討についてお伺いしたいと思います。このことについては、初日、22番議員より質問があり、答弁がなされているところでございますが、いま一度私のほうより質問をいたしたいと思います。

きょうは、保護者の方とか婦人会の方、たくさんお見えでございますけれども、子育て支援についてということで随分といろんな興味を持っていらっしゃるし、問題も抱えていらっしゃると思いますので、きょうの回答についてはしっかり聞いていきたいということでございました。

今、保護者にとって子育て期間の中で最も大きな負担となる時期が就学前の期間だと聞いております。特に、医療費になると頻度が多く、かなりの負担がかかっています。子育て中の母親の方々から今までに何回となく、医療費の無料が何とかならないかと相談がありました。やっぱりいろんな諸般の状況とか、議会の中でもいろいろずっと答弁されていたのを聞きながら、大変だなということは聞いておりましたけれども、今回また質問があり、もう一度、じゃあ聞いてみましょう、挑戦してみましようねということで質問しております。

今、地方分権の中で、すべて市民の要望を受け入れるということは無理だということのみんな承知しておりますし、市民の皆さんもそここのところは承知をしていらっしゃるのだと思います。しかし、今、子育て支援を考えると、先ほどの議員の質問にもありましたように、環境とともに大きな問題として産み育てる環境づくりというのが最も重要なときではないかなと思っております。御存じのように、県は6月議会で、入院中半額負担をということを打ち出しております。もう皆様も御存じのことだと思います。

ちょっと読ませていただきます。もう新聞で御存じだと思いますけれども。なぜ、今、6月に補正予算なのかということなんです。一部です。「特に入院時の医療費の負担が重く、1件あたり3歳未満は5万8千円、3歳から未就学児9万3千円、小学生9万9千円だった。保護者にとって突然の子ども入院は、精神的な負担も大きいため、経済的負担を軽減しようと、入院費の半額助成を決めた。保護者は半額を負担、残りは県と市町が折半する。年間の県の予算額は、4,500万円を見込む。古川知事はマニフェストに「医療費について将来的には小学校6年生まで対象にすることを目指す」と掲げてあります。

このようなときに、私たち武雄市はどのように検討されるのか。初日の議員の質問に加えて、市長の考えをお聞きしたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

基本的に、県が、古川知事がされていることについては、市としてもしっかり呼応して対応したいというふうを考えております。

その上で1点問題提起したいのは、確かに、子育ての環境を整えるということは、私も異を唱えるものではありません。むしろ、推進すべきだと思います。しかし、それには財源が、莫大な財源が伴います。ということは、何かをやめなければこういう子育てのところに充てられないという状況下にあるわけです。税収が減り、交付税が減り、しかも補助金が減る、財政の尺度から言うと県下でも真ん中より悪いといったときに、子育てのメニューは、これをやる、あれをやるというのは基本的に我々も持ち合わせております。しかし、それに充てるものを、何かあきらめるもの、やめるもの、それが先延ばしするものをぜひ議論をしなければいけないというふうと考えております。そういった意味で、自治体の財政、行政を持続する上で子育ての環境を整える、そのためには何をやめるかというのをもう1つ真摯に議論しなければいけないというふうと考えております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

何を先延ばししていくのかということですが、大変難しいことだと思います。でも、若い市長だということで、子育て中の若いお母さん方は本当に期待をされています。きょうも期待を込めて聞きに来ていらっしゃると思いますけれども、21世紀を担う子供たちのために子育て支援をするということ、そして今、少子・高齢化のこの時代に何を先にすべきなのか。本当に難しいことだとは思いますが、目先のことだけではなくて、近い将来、私たちは何をしていけばいいのか。私はどうしても、市の情勢はわかっておりますけれども、何とか考えていただきたいなと思って再度質問しているところです。

今、武雄市では歯科だけが就学前無料になっております。県内調べてみましたら、12市町が入院及び通院が無料です。3市町は入院のみ無料です。我が市は歯科のみです。それぞれの自治体で実施されております。どこの自治体も、本当に経営は大変だと思います。どこに重点を置くかの問題ではないかなと思いますが、市長としてはこのことについてどう思われますか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

とても重要な質問だと思います。私が考えるに、今さまざまな市が医療助成を行っております。具体名は申し上げませんが、それが主の目的となって公債費比率がはね上がって、自分のところでは起債ができないような状況に陥っているところもあります。そういっ

たことで、内々、首長さんたちと話をしたときに、いや、実はやめたいんだと、これが財政を逼迫して市がつぶれたら元も子もなか、夕張市のごとなるわけですね。それはやっぱり真摯に考えなければ、我々も考えなければいけないと思っております。

その上で、先ほど申したとおり、我々がやるべきことっていうのは、もちろん私も子育てをきちんとやるということで当選をさせていただいております。そういったことで、そのためにもう1つそして税収を上げなければ話にならんわけですね。だから、もちろんやりたいという気持ちはあります。それは現下の中でもやりたいという気持ちはありますけれども、しかし、その見合う財源の今なかわけですね。それを先ほど申したとおり、1つはほかの事業をやめることによって、それにオンをして、それを出すということと、もう1つ考えるのは、我々は今、観光客の誘致に必死になっております。観光客が来るということは、それだけ税金が落ちるということになります。そういうことで、我々は自主財源をどうしてもふやさなきゃいけない。それを基本的には、私は、先ほどおっしゃった子育て支援のほうに回していきたいというふうには考えております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

苦しい市の立場、本当にどうしたらいいのかという立場は、私たちも十分にわかります。では、本当に一から十まで、百まで見渡したときに、やはりこの問題は後にすべきなのでしょうか。

今、市長がおっしゃったように、陰の声で、もうやめたほうがよかって、やめたいという首長さんもいらっしゃるということをお聞きしました。私も、県内を調べさせていただきましたけれども、聞いたんですけれども、本当に大変だなという町が、就学前までですね、入院、それから通院の無料を実施されているんですよ。近隣の町でも実施されております。歯科のみじゃなくてですね。だから、その実態を私は、本当に経済的実態とかいろいろなことをわかりませんが、隣にできて、なぜうちでできないかと思うし、それから、今市長おっしゃるように、たくさんの方が武雄市に来ていただきたい、子育てするんだったら武雄市に行ってしまうのかなという市になってもらいたいと、私は強く望んでおります。

今も私の周りには、武雄市に移ってきて子供を産んだ方がいらっしゃいます。でも、その方たちには、まだこれは、見せはしませんけれども、うちが歯科だけだということ。だから、何とか考える余地がないのかな。初日の議員の答弁にもありましたように、大変だということはお聞きしております。でも、本当に前向きに取り組んでいただける善処策は本当はないものかなと、本当に私は思っておりますが、再度、済みません、お願いします。答弁をお伺いします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私は、医療費助成だけが子育ての環境の充実、維持ではないというふうに考えております。もちろん、それを否定するわけではありません。その上で、先ほど申したとおり、税収を確保するという事になった場合には、私は先ほどお約束したとおり、子育て支援に充実に充てていきたいというふうに考えております。その上で考えていただきたいのは、例えば、具体例を申し上げますと、私は出産の一時祝い金ですか、あれは1人、今10千円ですよ。あれはいかなものかというふうに考えるわけです。あれが年間で5,000千円から6,000千円ということであれば、むしろそれを私は医療費のほうにオンした方が、恐らく議員がおっしゃっていることと、私は近い。そういった意味での痛みをひとつ考えた上できちんと出すべきだというふうに私は考えておりますが、いかがでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

本当、意外な御意見でした。出生祝い金については、私も合併協議会のとき随分粘りました。北方ではたくさんいただいておって、皆さん喜んでいらしたので、せめてこれだけは残してほしいということで、随分、本当に何回も何回もやりとりして、やっと10千円ということでお祝いを武雄市全体にということで決定をしていただきました。

今、市長がおっしゃるように、それも子育て支援の1つです。それをやめて、こっちにする。じゃ、子育て支援の中、何も変わらんじゃないですか。私はそう思います。ですから、出生祝い金を動かすというのは、私はそれは反対です。いかがでしょうかとおっしゃいましたので、私はそう思っております。

まだほかに、本当によくよく検討されて、見つけていただきたいと思っております。市民の負託にこたえる議員として、私はこの件については、前に質問された議員と同じですけれども、やはり皆さんの意見、要望が多いことを頭に、繰り返し、また再度質問をしたいと思っておりますので、これについては終わりたいと思っております。

次に移ります。

次に、放課後子どもプランの実施計画についてお伺いしたいと思います。

今回、今まで行っております留守家庭世帯の、厚生労働省の放課後児童クラブ、通常、学童保育と言っております。それと、週末に行われております子供たちの活動する文部科学省の放課後子ども教室、これを居場所教室と俗に言っておりますけれども、この厚労省と文科省が一体となって、学童保育と居場所づくりが一体となって実施される計画が今度打ち出されております。そして、国の予算として13,759,000千円という多額の予算を組んで予算化をされております。そして実施するような方向が打ち出されておりますが、皆さんもう、新聞

にも載っておりましたので、御存じのことだと思えます。国が3分の1、県が3分の1、市町村が3分の1の負担で放課後子どもプランを計画するというふうになっております。

今、武雄市では厚労省の学童保育は全校に設置されております。それから、文部科学省の居場所づくり放課後子ども教室、これも全町に設置されております。私が見たところ、よでもまだ、本当近隣ですけれども、学童保育のないところもたくさんありました。ああ、武雄はそろっているんだな、よかったなと思えました。先ほどは子育てで文句を言いましたけれども、これでは本当に、ああ、そろっていてよかったなと思っております。

私が1つ驚きましたのは、この今の、厚労省と文科省のこれが一緒になるということを知ったときに、我が武雄市では、こども部というのができましたね。そのときに、私、こども部って何かなって、どうしてかなと思ったんですけれども、このプランが出たときに、ああ、やっぱり武雄市は国の計画を先取りして、こういう部をつくられたんだなと思って、驚きました。そして、さすが若い市長なので、いろんな子育てについてあれかなと思った。本当、それはびっくりしたんです。近隣の市町の方から、武雄市は早いね、じゃ、これはすぐスムーズに計画は行くんだねということをお聞きし、ああ、そうかなと思って、本当にびっくりしました。こんなふうな形で出てくるものとは思ってもみませんでしたのでですね。

それで、どのような計画を立てておられるのか、通告をしておりましたので、2つが一体となったどのような計画なのかをお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

松尾こども部長

松尾こども部長〔登壇〕

お答えいたします。

放課後子どもプランにつきましては、文部科学省と厚生労働省が連携をして進める事業ということになっておりまして、市におきましては今回新しくこども部ができましたので、こども部のほうで主体となって、あと教育委員会等と連携をしながら進めることといたしております。

プランの作成でございますけれども、これにつきましては、今後、実行委員会を組織いたしまして進めていきたいと思っております。

現在、さっき議員お話しになりましたように、放課後子どもクラブと、それから放課後子ども教室というのが2つございます。中身につきましては、今議員が御説明なさいましたので、ちょっと予算だけ申し上げますと、放課後子ども教室につきましては、ことしが約2,350千円事業費を計上いたしております。これは国、県が3分の2の補助ということになっております。それから、もう1つの放課後児童クラブでございますが、これにつきましては約27,870千円、利用の児童数に応じまして国、県で3分の2の補助、また県単独で2分の1の補助というのがございます。

この2つの事業につきましては、こども部といたしましては、これを一体的に進めていきたいと思っております。公民館、学校、それから各種の指導員さん、地域の方々と連携をして、例えば、放課後児童クラブの子供たちが放課後や週末に開催されます子ども教室のほうに参加して、地域の交流やいろんな体験学習ができるように、教室等の調整を図りながら、子供たちの健全育成を進めていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

実行委員会など、すばらしいものが早速できて、計画されていることをうれしく思います。

そこで1つお尋ねなんですけれども、私も放課後児童クラブのほうの人数とあれを見せていただきましたが、指導者の数についてはどのようにお考えなのかなと思っております。今現在されている学童保育、厚労省の学童保育については、97人に3人の指導者とか、それから3人の児童に2人の指導者とか、32人に2人の指導者というふうに、いろいろばらつきがあるんです。子供たちはみんな同じですので、できるだけ平等に指導者がいたほうがいいなと思っておりますが、大体、児童何人に1人の指導者というふうなことが、今まででも結構ですけど、ありますか。

議長（杉原豊喜君）

松尾こども部長

松尾こども部長〔登壇〕

お答えいたします。

放課後児童クラブの指導員さんの数でございますけれども、これは特に基準というのはございません。原則、現在2人は置くということで、あとその児童の数によって3人とか置くようにいたしております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

原則として2人ということで、現に2人を配置されていると思いますけれども、今後新しいプランを進めるに当たっては、ぜひ指導者の数をふやしていただきたいな、それで多いところは多く、少ないところは少なくないかなと思いますので。私も学童保育を何回か見に行きました。本当に危ないなということを、学年の差がありますのでですね。ぜひ指導者の数をふやしていただきたいと思います。

もう1つですけれども、こんなふうに合体して一体となった場合には、場所とかなんとかについてはどのようにお考えなのかな。計画の段階ですので、簡単に結構です。

議長（杉原豊喜君）

松尾こども部長

松尾こども部長〔登壇〕

お答えいたします。

放課後児童クラブにつきましては、学校の空き教室とかを使って現在やっております。それから、放課後子ども教室につきましては、これは各地の公民館を現在使って放課後子ども教室についてはやっております。

さっき申しましたように、放課後児童クラブの児童たちを教室の方に参加させるということになりますと、その子供たちは公民館とかに移動をさせて、そこで教室の子供たちと一緒にいろんな体験学習等をさせたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

私も本当にこんがらがっていたんですけども、学童保育は留守家庭のために学校で3年生まで行われております。居場所づくりについては土曜日に、週末に、自由に参加をして、1年生から6年生まで、中学生もあるところもあるかと思っておりますけれども、自由に参加をして、いろんな行事に参加しております。それが一体となるということですので、学童保育は今まで留守家庭じゃないといけなかったのが、それはだれでも行けるというふうになります。そして、学童保育に行っていた子供も土曜日にはこっちにも行っていい。だから、みんな、どこにでも行っていいという形になる。だから、子供たちにとってはいいことじゃないかなと思っておりますけれども、私たちが心配するのは、今言いましたような指導者の数とか場所がどうなるのかなということでございます。

もう1つお尋ねをします。今から実行委員会を立ち上げて計画をなさるということですが、これは要望ですけれども、県としては週2日ぐらいは平日にどうかという案が出されていると思いますが、その点についてのお考えをお聞かせください。

議長（杉原豊喜君）

松尾こども部長

松尾こども部長〔登壇〕

お答えいたします。

放課後子ども教室につきましては、現在、土日、それから長期休みの期間ですね、その日に実施をするようにいたしております。今後のプランを練る段階で、また検討いたしたいと思っておりますけれども、原則、土日、それから長期の休みのときということで考えております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

それでは、まず実行委員会を立ち上げてということですので、要望として、指導者をふやす、平日2日はしてほしいということを入れていただきたいと思います。

それから、先ほど夏休みとおっしゃいましたが、夏休みは学童保育はされているんですね。これも近隣の市町ではされていないところが多くて、武雄市だけよかったなと思ったところでした。

それから、この計画をするに当たっては、地域を巻き込んでということをやっています。私たち地域人として、協力できるところは大いに協力していきたいと思っておりますので、素晴らしい計画をお願いしたいと思います。

では、次に移らせていただきたいと思います。

次に、またですけれども、12月議会に一般質問いたしました桜並木についてでございます。

これは、地元の区長会の方からも要望書が出ていると思いますが、地元と一体となって合併記念として、とにかく六角川の水と道路と人とみんなが一体となることができる桜ロードを計画しようねということで提案をお願いしたと思います。市長も常々言っておられるように、自然に、環境に優しくということですね。その進捗状況がどのようになっているのかなと思っておりますので、説明をお願いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

この件については順調に今進んでおります。この件もです。進んでおります。来年の春には植栽が完了できるように頑張りたいというふうに思っております。これは、市を挙げて地域の取り組みを応援したいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

うれしい答弁で、これでいいです。どうぞ、本当に桜の花が咲くのを楽しみに、みんなで待ってたいと思います。それからまた、我々地域でもしなくてはならないことがありましたら、協力をいたしたいと思っております。

続いて、次の自転車ロードについて、これも12月議会に質問をいたしておりました。これについて質問をいたします。ごめんなさい。

さっきの桜のことでございますが、計画は順調に着々と進んでいるとお聞きしておりますが、私たちが提案しましたような、するっと一直線になった桜並木ができるものなのでしょうか。どういうふうな構想なのか、ちょっとお聞かせください。

議長（杉原豊喜君）



松尾まちづくり部長

松尾まちづくり部長〔登壇〕

お答えいたします。

今計画しておりますのは、堤防の下の低いところですね、低地のところですね、あそこに5メートル間隔で植えたいと。大体、延長的に500メートルありますので、1列植えたとしても100本ぐらい植えられるんじゃないかというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

100本植えられるということで、箇所箇所についてはそれぞれ構想を練っていただいております。大変難しいということで12月のときに聞いておりましたので、どうなのかなと心配しておりました。でも、本当に100本も植えられるとなるとすばらしいなと思います。そして、引き続き、やっぱり山内までずっと、合併としてつないでいけばまだいいなと思っておりますので。楽しみにしておきます。

次に、自転車です。

先ほどから高校総体の話も出ておりましたけれども、私は高校総体を記念してということで、本当に時期的には無理だなと思ながらも、12月に提案を、質問いたしました。間に合わないのはころっとわかっておりましたけれども、ぜひということでですね、本当に競輪の町武雄市としてすばらしい道路ができればなと思って質問いたしました。それもどうなっているものか、お聞きしたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

松尾まちづくり部長〔登壇〕

自転車ロードといいですか、サイクリングロードといいですか、これにつきましても桜並木と同様に国土交通省、河川事務所と協議しております。これも河川事務所の方から、武雄市全体としての計画として考えてくれというふうに言われております。ただ、まだ整備するに当たっては、堤防天端にするのか、あるいは中段の小段のところにするのか、いろいろ課題がありますので、そこは今協議中でございます。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

本当に着々と進んでいる様子をお聞きして、本当にうれしく思います。これ、お聞かせください。12月のときに聞いたときに、下の方に、一番上の今ある堤防のところと旧堤防のところ、何て言いんさあ、天端と小段で言いんさあですかね。じゃ、小段のところを私は道路

として使ってほしいということをお聞きしては、そのときに、小段のところには光ケーブルが埋まっているからということをお聞きしました。それがどのようになっているのかなと思って、お聞かせ願いたいと思います。大変困難だということで、光ケーブルの問題があるということをお聞きしましたが、どのようなものなのか。

議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

松尾まちづくり部長〔登壇〕

先ほど言われたとおり、小段のところには光ファイバーのケーブルが入っています。それでハンドホールも途中途にあるわけですね。それで、ちょっと難題だなというところで今、河川事務所とそこを詰めているというところですよ。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

光ケーブルというものがそもそもどういうもので、どんなになっているのかというのをちょっとお聞きしたかった……通告をしておりましたけれども。

議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

松尾まちづくり部長〔登壇〕

災害情報の通信ケーブルというところがございます。

議長（杉原豊喜君）

光ファイバーケーブルとはどういうものかと。

松尾まちづくり部長（続）

済みません。小段のですね、30センチぐらいの深さのところはずっと光ファイバーが埋まっているというところですよ。（発言する者あり）

光ファイバーそのもののことを聞かれているわけですかね。

〔8番「いえいえ……」〕

埋設は、天端から30センチ程度のところに入っているというところですよ。（発言する者あり）今、そこまでしか、ちょっと私も聞いておりません。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

光ケーブルそのものはどういう役目なのかは知っております。30センチのところには埋めてあるということも聞いておりますが、それで、その上の小段のところをコンクリートにして、そういうものでだめなものなのか、それとも、どんなものなのか、何と言うぎよかですかね。

……。 (発言する者あり) お聞きします。

議長 (杉原豊喜君)

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

基本的に、コンクリートで固めれば、それは済むと思います。しかし、河川のところに、あそこにコンクリートを敷き詰めることはどうかというのは私、これは議員と同じかもしれませんが、基本的には土のままがいいというふうに思っております。土もいろいろ種類がありますので、そういう意味で自然に優しいサイクリングロードというのを目指したい。そうなったときに、30センチ真下の光ファイバーケーブルというのは問題になるわけですね。だから、それは国交省、河川事務所等とよく協議をしたいというふうに思います。

議長 (杉原豊喜君)

8番上野議員

8番 (上野淑子君)〔登壇〕

わかりました。その件について、随分と苦労されているということをお聞きしたんです。それで、係の方が国土交通省初め、いろんなどころに行って、本当に努力されて、ここまでこぎ着けられたということをお聞きして、私はきょうは本当に感謝の意味を込めて質問せんばいかんねと思っておりました。本当に大変だったと思いますけれども、ここまでこぎ着けていただいて、うれしく思っております。

今、市長がおっしゃったように、コンクリートで固めるんじゃなくて、自然にということ、私もその点についてはいろいろ、建材屋さんとか、いろんなどころにお聞きしました。どうすればいいのか。どうしてもあそこを歩きたいと私は思うものですから、いろいろ調べてみました。そしたら、もう御存じだと思んですけど、私の調べた範囲内ですけれども、こんなものがあるということをお聞きしたんです。土に近くて自然体の道路としてS Lソイルサンドという方法と、それからエイド工法というのがあるということをお聞きしたんです。一体これは何やろうかと思って、私も見にも行きました。そしたら、これは両方ともコンクリートではありません。水を浸透するものだそうです。だから、今、花粉症とかアレルギー症が本当に多くなったというのは、地面に落ちたときにコンクリートは何も吸収しなくて、それがはね返って人体に来るということが多いということも一因、大きな原因があるということをお聞きしました。こういうふうな方法ですると、それが地中の中に全部吸い込んでいくと。だから、人体にも優しく、土にも優しく、本当に自然体に近い道路ですばらしいものだというのを聞いております。値段については聞いておりません。それで、そういうふうなのがあると聞いて、ああ、よかったなと思ってですね、ぜひこういう方法でしていただきたいなと私は思っております。

そして、本当に、市長は同じかもしれませんが、同じですね。自然環境をずっと守っていき

たいという気持ちは本当に同じです。だから、どうぞ、せっかく桜と道路ができるという進捗状況であります。どうぞこの2つが自然に優しく、そして人に優しく、川と水と人と自然が一体となった自然の町武雄市としてでき上がることを望んで、一般質問を終わります。